

MS&AD Report

中間ご報告 2013.4.1 ▶ 2013.9.30

■ CONTENTS

- 1 2013年度中間期 ビジネスレビュー
- 3 **TOP MESSAGE**
- 5 機能別再編について
- 6 中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」
- 7 業績ダイジェスト(2013年度中間期)
- 12 トピックス
- 13 会社概要／役員／株式の状況
- 14 株主メモ



2013年度中間期 ビジネスレビュー

♣ MS&ADインシュアランスグループ ◆ 損害保険 ♥ 生命保険

◆ 三井住友海上

中堅・中小企業向け「ビジネスマッチング」支援サービス

三井住友海上は、5月から中堅・中小企業のお客さま向けに、企業間の取引を支援する「ビジネスマッチングサービス」を開始しました。ビジネスマッチングサイト上で、商品やサービス等を「売りたい、提供したい」お客さまと「買いたい、探したい」お客さまを結びつけるもので、三井住友海上の契約者以外の方でもご利用いただけます。それぞれの企業のニーズに合わせた取引先を紹介することで、お客さまの事業拡大を支援します。



♥ 三井住友海上あいおい生命

UCDAアワード2013（情報のわかりやすさ賞）を受賞

7月、三井住友海上あいおい生命は、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会が主催する「UCDAアワード2013」の生命保険告知書部門において、最優秀賞となるUCDAアワード2013（情報のわかりやすさ賞）を受賞しました。これは、2013年4月に改定した生命保険告知書が、お客さまにとって「見やすく、わかりやすく、伝わりやすい」デザインであることが認められたものです。



◆ 三井ダイレクト損保

事故のないクルマ社会を目指して

～専用HP「MUJICOLOGY!研究所」のコンテンツを拡充～



三井ダイレクト損保では、事故のないクルマ社会を目指し、「ゆずりあい＝ドライブマナー向上」をアピールするプロジェクト「MUJICOLOGY!研究所」を公式HP内で展開しています。8月からは、「渋滞学」の権威である東京大学先端科学技術研究センター・西成教授を研究所の所長にお迎えし、「車間距離の保持」「ジッパー合流」等の、「渋滞緩和・エコドライブ・交通事故防止」につながる実践的な運転方法を専用HPで公開するなど、コンテンツを拡充しています。

◆ あいおいニッセイ同和損保

交通ルールの順守をテーマに企画した絵本が完成

あいおいニッセイ同和損保は、商品ブランド「TOUGH（タフ）」のマスコット・キャラクターであるシロクマ親子（タフイー&ハッピー）が主人公の子ども向け絵本を企画いたしました。完成した絵本（タイトル：『タフイーとハッピーのたのしいまいにち～おてつだいたい～』）は、シロクマ親子の日常のやり取りを通じ、交通ルールを順守することの大切さをストーリーに織り込み、子どもたちへのメッセージとしています。（2013年9月25日からポプラ社より販売中です。）



2013年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

♥ 三井住友海上プライマリー生命

外貨建定額終身保険の新品「たのしみ、ずっと」を発売

三井住友海上プライマリー生命は、5月に新たな外貨建定額終身保険「たのしみ、ずっと」を発売しました。この商品は、日本円よりも比較的高い利率で運用できる「外貨建て運用」の終身保険に、毎年の運用収益分を10年間お受取りいただける「定期支払金」や「死亡保障充実機能」を備えたものです。外貨建定額終身保険に新たなラインアップを加えることで、お客さまのライフスタイルやニーズに一層お応えできるようになりました。



◆ 三井住友海上

スマートフォン向けアプリ「スマ保」の新サービス開始

三井住友海上は、8月からスマートフォン向けアプリ「スマ保」の第2弾として新サービスの提供を開始しました。「スマ保」は、「保険をてのひらに」をコンセプトとする三井住友海上の独自アプリで、サービス開始以来、累計30万件以上のダウンロード件数を記録しています。第2弾では、全国の自治体指定の避難所等を地図やカメラ機能で表示する「災害時ナビ」、海外旅行で役立つ情報をまとめた「海外旅行ナビ」などが新たに加わりました。



◆ あいおいニッセイ同和損保

地震保険をわかりやすく伝えるタブレット端末用の動画をリリース

あいおいニッセイ同和損保は、お客さまのリスク状況のチェックやリスクに応じた保険のご案内・アドバイスを行うため、タブレット端末向けのアプリケーション「TOUGH PORTAL」（タフ・ポータル）を代理店に提供しています。今回、そのタフ・ポータル用に新たに「タフ・住まいの保険プレゼンテーションアプリ」を開発し、お客さまへ地震保険の内容をわかりやすく伝えることができる動画コンテンツを追加しました。



♣ MS&ADインシュアランスグループ

機能別再編に関する合意書を締結

9月27日、MS&ADホールディングス、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保および三井住友海上あいおい生命は、「機能別再編に関する合意書」を締結し、その内容を公表しました。

▶ P5で詳しくご紹介

■ 当社グループについて

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

「立ちどまらない保険。」に込めた想い

MS&ADインシュアランスグループは、保険業界における、もっとも果敢なチャレンジャーであり続けたいという決意を、「立ちどまらない保険。」というグループスローガンに込めています。

(主な保険事業会社)

MS&AD

MS&ADホールディングス

MS&AD 三井住友海上

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

三井ダイレクト

MS&AD 三井住友海上あいおい生命

MS&AD 三井住友海上プライマリー生命

GK

TOUGH

三井ダイレクト損保の自動車保険

& LIFE

個人年金は、未来への贈りもの。

TOP MESSAGE

持続的成長と企業価値向上を追い続ける 世界トップ水準の保険・金融グループを創造します。

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2013年度中間期（2013年4月1日から2013年9月30日まで）のご報告をお届けします。

今年度も全国各地で記録的な集中豪雨や竜巻、台風など多くの自然災害による被害が相次いでおります。これらの災害により被災された皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、当中間期の世界経済は、米国では債務上限問題の懸念は残るものの、緩やかな回復傾向にあり、中国を中心とした新興国の成長鈍化や欧州経済の低迷にも一部底入れの兆しが見られました。世界経済を巡る不確実性が引き続き景気の下振れリスクとしてあるものの、わが国経済においては、「アベノミクス」による大胆な金融緩和策や機動的な財政政策、そして成長戦略への期待などで円高の是正や株価の上昇などが進行し、これらを背景に企業収益が改善し、設備投資や個人消費にも持ち直しの動きが見られるなど、景況感は改善されつつあります。

このような中、2010年度に発足した当社グループとして初めての中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」も最終年度を迎えています。この計画が2010年度にスタートしてから、今日に至るまで私たちを取り巻

く事業環境はめまぐるしく変化し、大変厳しいものではありませんでしたが、品質向上を通じた「持続的な成長の実現」とグループの総合力を結集した「グループシナジーの追求」などを通じて、企業価値の向上とグループ基盤の整備を進めてまいりました。

この結果、当中間期における当社グループの連結業績では、国内損保会社は着実に増収し、正味収入保険料が1兆4,249億円と前年同期比851億円の増収となりました。この要因は、国内損保事業の三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保ともに住宅販売市場の好調などの背景から火災保険が大幅に増収となり、併せて自動車保険も引き続き増収するなど、全ての種目で増収を達成したことによります。

また成長分野である国内生保事業、海外事業も着実に業容拡大を続けております。

当中間期の経常利益は、タイ洪水や国内自然災害の保険金支払いが前期に比べ減少したこと、また株式相場の上昇等により有価証券評価損が減少したことなどにより、前年同期比1,564億円増加の1,630億円と大幅に増益しました。中間純利益は、前年同期比1,190億円増加し、1,095億円となり、2010年の当社グループ発足以来、中間期として過去最高となりました。

また、今年1月に発表した機能別再編も着実に進捗し、

MS&ADホールディングス、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、および三井住友海上あいおい生命の4社は、当社グループの持続的な成長と企業価値向上を図るべく協議を行い、9月には「機能別再編に関する合意書」を締結しました。

この機能別再編は、保険会社グループ再編として初めての事例です。当社グループは、スピード感を持って「成長」と「効率化」を同時に実現し、持続的な成長の一層の加速を実現し、世界トップ水準の保険・金融グループを目指してまいります。

なお、2013年度中間配当金につきましては、前期比で1株あたり1円増配の28円とさせていただきます。また株主還元の一環として、当中間期に約195万株、約50億円の自己株式取得を実施いたしました。

当社グループでは、機能別再編の具体的な取り組みをさらに加速させるとともに、中期経営計画の総仕上げを行うため、各事業においてグループの総合力を結集してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年 12月

取締役社長 江頭敏明

機能別再編について

機能別再編の目的

少子高齢化による市場の縮小、近年の大規模自然災害の続発等による厳しい事業環境の認識のもと、お客さまニーズや販売方法の多様化、国内外における規制環境の変化等にスピード感を持って的確に対応すべく、経営統合の第二段階として、持株会社傘下の保険会社を機能別に再編することといたしました。

1 MS&ADインシュアランスグループの持続的な成長と企業価値の向上

本機能別再編を実施することにより、次の目的を実現させ、MS&ADインシュアランスグループの持続的な成長と企業価値の向上を図ることを目指します。

- (1) MS&ADインシュアランスグループ全体の「成長」と「効率化」の実現
- (2) 多様化するお客さまのニーズへの対応の強化
- (3) 持株会社を中心としたガバナンス体制の強化

2 中核損保2社の事業コンセプトの明確化

中核損保である三井住友海上およびあいおいニッセイ同和損保の事業コンセプトを次のとおり明確化することにより、グループ内に特色ある損害保険会社を複数有することのメリットを追求し、お客さまからの支持・満足度向上を実現し、国内No.1損保グループの地位を確固たるものとすることを目指します。

再編の内容と今後のスケジュール

本機能別再編の内容と今後のスケジュールは、以下の通りです。

再編の内容	再編開始時期
船舶保険、貨物・運送保険、航空・宇宙保険の三井住友海上への移行 <組織体制の一体化> <船舶保険、航空・宇宙保険の移行> <貨物・運送保険の移行>	2014年4月1日～ 2014年4月1日～ 2014年10月1日～
あいおいニッセイ同和損保を主たる取引先とする三井住友海上モーターチャネル代理店の取扱い保険契約の移行 販売網・拠点の集約 拠点の共同利用	2014年10月1日～ 2015年4月1日～（一部地域は2014年10月1日～） 2013年10月1日～
第三分野長期契約の三井住友海上あいおい生命への移行 <新規契約移行> <保有契約に関する業務委託> <保有契約移行>	2014年4月1日～（一部商品は別途移行時期を決定） 2015年1月1日～（あいおいニッセイ同和損保の契約保全・収納業務は2015年4月1日～） 2018年3月31日時点における保有契約を移行することを目指す
海外事業の再編 本社機能の再編と持株会社のガバナンス強化	2014年4月1日～ ^(注) 2013年10月1日～

(注) 再編完了地域の開始時期です。既に15の国と地域で再編が完了しています。

- (1) 三井住友海上は、総合力を発揮し他社優位性のある商品・サービスを提供し、国内外を問わずグローバルな保険・金融サービス事業を展開します。
- (2) あいおいニッセイ同和損保は、独自の強みであるトヨタグループ・日本生命グループというパートナーとの関係を強化し特長を活かすとともに、他社優位性のある商品・サービスを提供し、地域密着営業を展開します。なお、海外においては引き続きトヨタディーラーを通じたリテール事業を中心に展開します。

3 第三分野長期契約の一元化

成長分野と位置づける第三分野の長期契約について、三井住友海上あいおい生命に商品供給機能を一元化することにより、お客さま対応レベルをより向上させるとともに経営資源の集中によって効率的なオペレーションを実現させ、グループ全体での総合力を発揮し、お客さま満足度・成長力・収益力において損保系生保No.1の地位を獲得することを目指します。

中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」（2010年度～2013年度）

中期経営計画の進捗について

中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」は最終年度を迎え、計画完遂のため各種施策を強化し、各経営数値目標の達成に向けて取り組んでおります。

国内損害保険事業の収益の改善、成長分野である国内生命保険事業および海外事業での収益の拡大により、2013年度経営数値目標であるグループコア利益1,100億円の達成を見込みます。

(単位：億円)

	2010年度実績	2011年度実績	2012年度実績	2013年度見込
正味収入保険料	25,414	25,588	26,394	28,000
生命保険 保有契約 年換算保険料*1	2,790	2,960	3,197	3,330
グループコア利益*2	145	△ 875	874	1,100
国内損保事業	65	197	619	720
国内生保事業	41	43	98	160
海外事業	18	△ 1,123	135	180
金融サービス事業/リスク関連事業	19	7	20	40
グループROE*3	0.8%	△ 5.6%	5.0%	5.3%

*1 三井住友海上あいおい生命の数値です。(三井住友海上プライマリー生命は含みません。)なお、2010年度は三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の合算値を表示しています。

*2 グループコア利益：MS&ADインシュアランスグループ独自の利益指標で以下の方法により算出します。

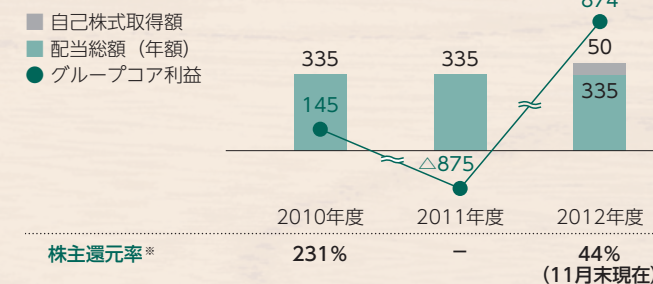
$$\text{グループコア利益} = \text{連結当期利益} - \text{株式キャピタル損益(売却損益等)} - \text{クレジットデリバティブ評価損益} - \text{その他特殊要因} + \text{非連結グループ会社持分利益}$$

*3 「グループROE」：グループコア利益÷期初・期末平均連結純資産（除く少数株主持分）

株主還元方針について

グループの中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」では、統合効果の発揮と成長戦略の推進による収益の拡大を株主還元増大へとつなげることを謳っています。具体的な株主還元としては、配当と自己株式の取得を通じ、中期的に「グループコア利益」の50%を目処として利益還元を行ってまいります。また、成長領域への積極的な事業投資を継続することにより持続的な成長サイクルを実現し、利益の拡大を通じて株主還元増大を目指します。

株主還元額 年度別実績



* 株主還元率：下記のような方法で算出しています。(「2010年度」の例)

$$\frac{\text{2010年度に関する配当(2010年12月、2011年6月)} + \text{2011年度に行った自己株式の買付け}}{\text{2010年度の「グループコア利益」}}$$

■ 業績ダイジェスト (2013年度中間期)

MS&ADホールディングスの状況 (連結)

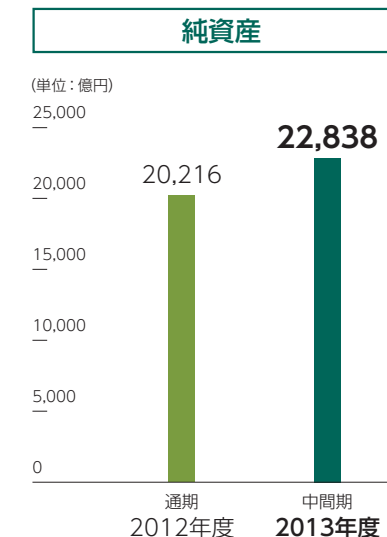
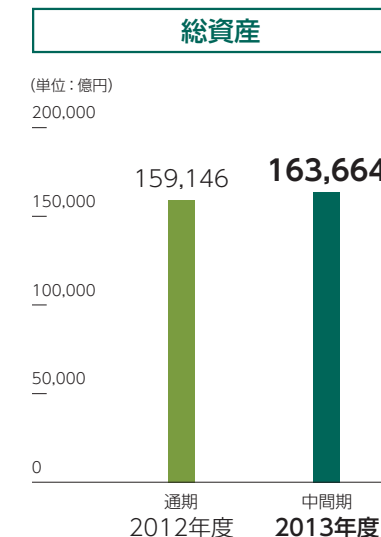
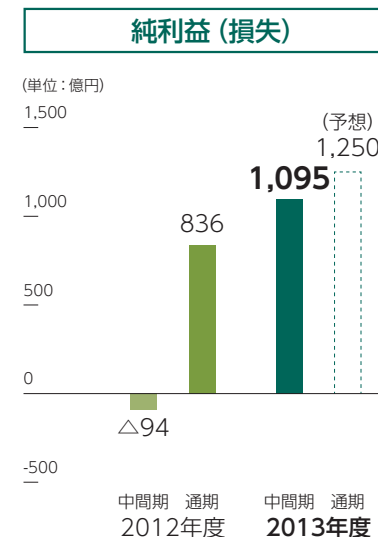
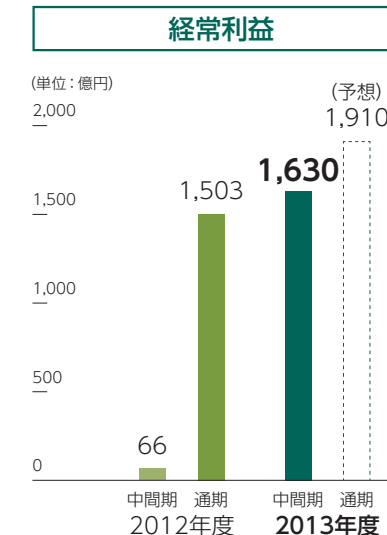
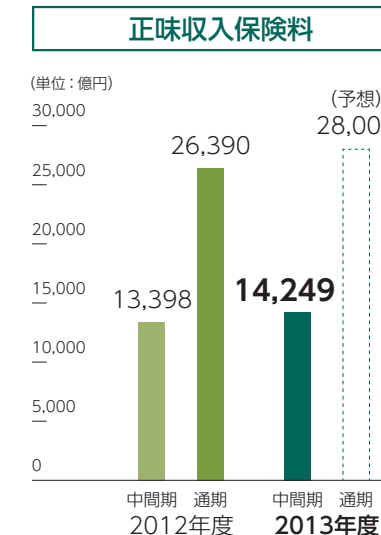
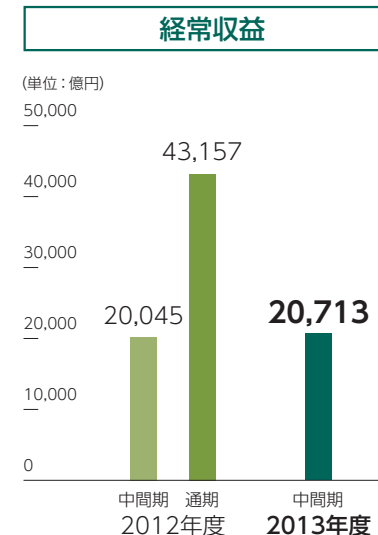
国内損害保険子会社が堅調に増収していることに加え、海外保険子会社も全地域において大きく増収したことにより、正味収入保険料は、前年同期比プラス851億円と6.4%の増収となりました。

一方、中間純利益につきましては、国内損害保険子会社の大幅増益に加え、国内生保子会社、海外保険子会社も増益となったことにより、前年同期比プラス1,190億円と大幅増益の1,095億円となり、MS&ADグループとして中間期の最高益となりました。

また、今中間期のグループコア利益は1,003億円と、順調に進捗しております。

	2012年度 中間期	2013年度 中間期	増減額	増減率 (%)
経常収益	20,045	20,713	667	3.3
保険引受収益	18,958	17,348	△1,610	△8.5
正味収入保険料	13,398	14,249	851	6.4
資産運用収益	1,050	3,314	2,263	215.4
その他経常収益	35	50	14	40.4
経常費用	19,978	19,082	△896	△4.5
保険引受費用	15,031	15,864	833	5.5
資産運用費用	2,404	472	△1,931	△80.3
営業費及び一般管理費	2,477	2,599	121	4.9
その他経常費用	68	145	76	111.5
経常利益	66	1,630	1,564	2,338.7
中間純利益又は中間純損失(△)	△94	1,095	1,190	—
総資産	159,146 ^(※)	163,664	4,518	—
純資産	20,216 ^(※)	22,838	2,622	—

(※) 2012年度末の数値を掲載しています。

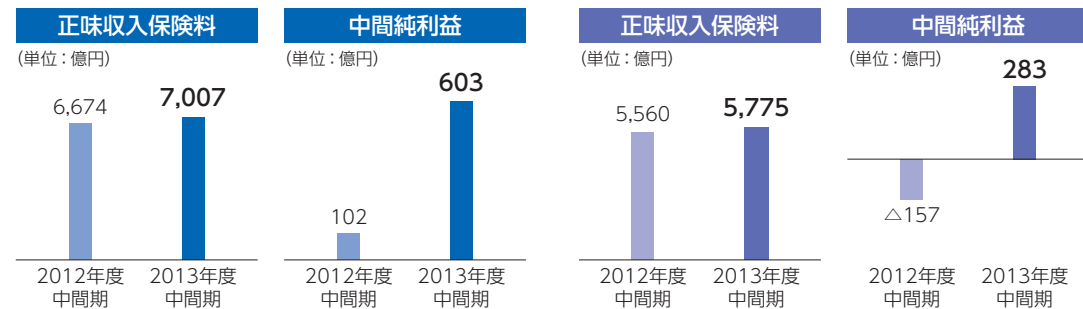


(注) 経常収益については、業績予想を行っておりません。

詳しくは当社WEBサイト「決算短信」をご参照ください。 <http://www.ms-ad-hd.com/ir/library/earnings.html>

損害保険子会社における主要財務データ

	三井住友海上 (単体)			あいおいニッセイ同和損保 (単体)			三井ダイレクト損保 (単体)		
	2012年度 中間期	2013年度 中間期	比較増減	2012年度 中間期	2013年度 中間期	比較増減	2012年度 中間期	2013年度 中間期	比較増減
正味収入保険料	6,674	7,007	332	5,560	5,775	214	174	175	1
(対前期増減率)	3.7%	5.0%	—	2.4%	3.9%	—	3.3%	0.6%	—
正味損害率	72.4%	63.9%	△8.5%	70.3%	62.8%	△7.5%	78.0%	76.3%	△1.7%
正味事業費率	31.8%	31.2%	△0.6%	33.6%	33.8%	0.2%	20.5%	21.4%	0.9%
コンバインド・レシオ	104.2%	95.1%	△9.1%	103.9%	96.6%	△7.3%	98.5%	97.7%	△0.8%
保険引受利益	463	310	△152	173	108	△65	7	7	△0
資産運用損益	△291	664	955	△235	276	511	0	0	△0
経常利益又は 経常損失 (△)	126	873	747	△70	400	471	8	7	△0
中間純利益又は 中間純損失 (△)	102	603	501	△157	283	440	8	7	△0
(対前期増減率)	91.9%	490.7%	—	—	—	—	76.6%	△ 8.0%	—
純資産額	11,920 ^(※)	13,443	1,522	5,524 ^(※)	6,094	570	110 ^(※)	117	7
単体ソルベンシー・ マージン比率	581.3% ^(※)	599.2%	17.9%	649.1% ^(※)	771.6%	122.5%	429.4% ^(※)	433.7%	4.3%



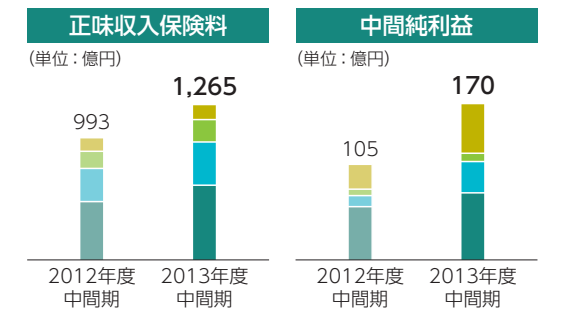
(注) 1. 上記の表およびグラフは、三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ (満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しております。

2. 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料 × 100

3. 正味事業費率 = (諸手数料及び集金費 + 保険引受に係る営業費及び一般管理費) ÷ 正味収入保険料 × 100

海外保険子会社の状況

	(単位: 億円)		
	2012年度 中間期	2013年度 中間期	比較増減
正味収入保険料	993	1,265	271
■ アジア	470	604	134
■ 欧州	271	353	82
■ 米州	140	183	43
■ 再保険	111	123	11
中間純利益	105	170	65
■ アジア	57	72	14
■ 欧州	12	34	21
■ 米州	7	9	2
■ 再保険	27	54	26



(注) 4. コンバインド・レシオ = 正味損害率 + 正味事業費率

5. 単体ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な指標の一つであり、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

(※) 2012年度末の数値を掲載しています。

トピックス

生物多様性の保全取り組み

MS&ADインシュアランスグループでは、生態系の劣化は、地球の将来にとって重要なリスクの一つであると考え、生物多様性の保全に関わる様々な取り組みを行っています。

■ 水辺・湿地を保全する取り組み

MS&ADインシュアランスグループでは、ラムサール条約に登録された湿地を中心に、多様な生きものが暮らす水辺の生物多様性保全活動「MS&ADラムサールサポーターズ」を推進しています。今年度は、全国8カ所の湿地で、1,000名を超える社員と家族が参加し、外来種の駆除や清掃活動、生きもの調査を行っています。また、2011年に東日本大震災の津波で被災した南三陸町の水田を、「ふゆみずたんぼ(※)」農法を用いて多様な生きものが生息する豊かな水田へ再生する活動を行いました。その後も、再生した水田の田植えや稲刈り作業を通じて、環境共生型農業のサポートを継続しています。

「ラムサールサポーターズ」の各地の取り組みは公式ホームページでご覧いただけます。
<http://www.ms-ad-hd.com/ramsar/>

※ふゆみずたんぼ(冬期湛水水田)

冬の期間に、水田に有機物を多く含む水をはる農法。春まで水を貯めることで、稲の切り株やワラなどの有機物が水中で分解され微生物や藻が発生し、その抑草・施肥効果により、多様な生きものが生息する豊かな水田になる。



ウトナイ湖での
ラムサールサポーターズの活動



田植えの様子

■ 企業の生物多様性保全の取り組みを支援

三井住友海上では、生物多様性の保全を目指して、企業が集まり共同研究する「一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」の設立(2008年4月)以来、会長会社としてこの活動に参加しています。また、JBIBやインターリスク総研の特別協力を受け、2007年より、企業が生物多様性の取り組みを行うための啓発活動として、企業の担当者向けに生物多様性に関するシンポジウムを毎年開催しています。



シンポジウムの様子

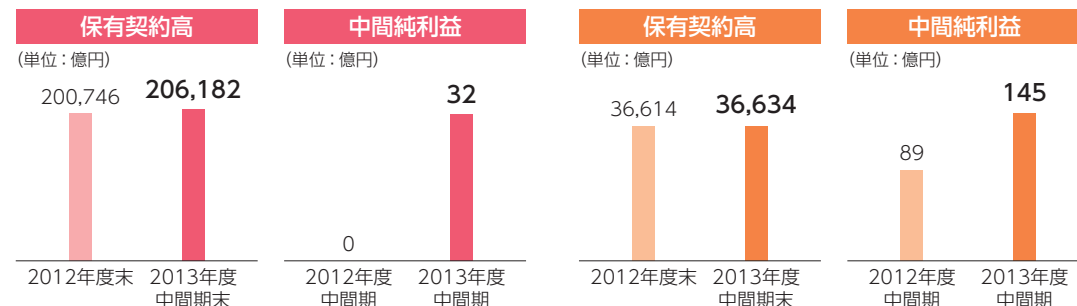
JBIB
企業と生物多様性イニシアティブ

■ 生物多様性保全に関する
リスクコンサルティングサービスの提供

インターリスク総研では、事業所・工場・社有林の土地の利用について、生物多様性保全の視点での簡易診断サービスを無料で提供しています。また、事業のバリューチェーン全般にわたって生物多様性リスクを分析し、さらにビジネスチャンスの提案も行っています。特に事業所・工場・社有林等の持続的な土地利用のコンサルティングについては、住友林業緑化、地域環境計画、住友林業の3社とエコアセット™・コンソーシアムを組織し、土地利用戦略の策定から地域のステークホルダーとの連携まで、ワンストップでサービスを提供しています。

国内生命保険子会社における主要財務データ

	三井住友海上あいおい生命 (単体)			三井住友海上プライマリー生命 (単体)		
	2012年度 中間期	2013年度 中間期	比較増減	2012年度 中間期	2013年度 中間期	比較増減
新契約件数	161,878件	122,468件	△39,410件	41,450件	54,513件	13,063件
保有契約高	200,746 ^(※)	206,182	5,436	36,614 ^(※)	36,634	19
保有契約年換算保険料	3,197 ^(※)	3,273	76	4,342 ^(※)	4,184	△158
基礎利益	30	64	34	126	301	175
中間純利益	0	32	32	89	145	55
純資産額	1,322 ^(※)	1,237	△85	712 ^(※)	856	144
単体ソルベンシー・ マージン比率	1,309.8 ^(※)	1,250.4%	△59.4%	884.0 ^(※)	1,038.6%	154.6%



(注) 1. 新契約件数、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計を記載しています。

2. 保有契約年換算保険料は、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額を示しています。

3. 基礎利益は、保険本業の収益を示す指標の一つで、「経常利益」から「キャピタル損益」と「臨時損益」を控除したものです。

4. 単体ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な指標の一つであり、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

(※) 2012年度末の数値を掲載しています。

■ 会社概要／役員／株式の状況

会社概要 (2013年9月30日現在)

社名	MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区八重洲一丁目3番7号
設立	平成20年(2008年)4月1日
資本金	1,000億円
従業員数	37,125名(連結)

役員 (2013年9月30日現在)

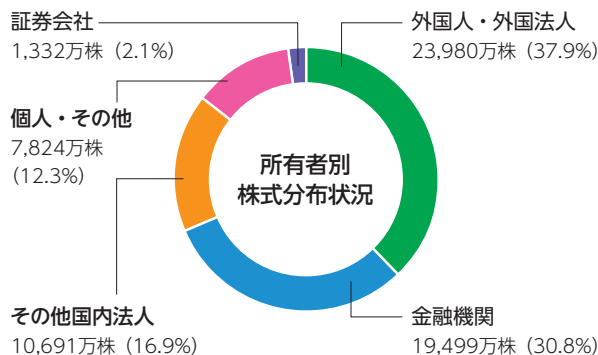
取締役社長(代表取締役)	社長執行役員	江頭 敏明
取締役(代表取締役)	執行役員	柄澤 康喜
取締役(代表取締役)	執行役員	鈴木 久仁
取締役(代表取締役)	執行役員	米田 正典
取締役	専務執行役員	藤本 進
取締役	専務執行役員	堀本 修平
	専務執行役員	田中 敏彦
	執行役員	藤井 史朗
取締役	執行役員	土屋 光弘
取締役	執行役員	飯島 一郎
	執行役員	西方 正明
	執行役員	金杉 恭三
取締役	執行役員	柳川 南平
	執行役員	上野 晋
	執行役員	三浦 浩
社外取締役		渡邊 顯
社外取締役		角田 大憲
社外取締役		小川 是
社外取締役		松永 真理
監査役(常勤)		池田 克朗
監査役(常勤)		吉野 二良
社外監査役		安田 莊助
社外監査役		野村 晋右
社外監査役		手塚 裕之

株式の状況 (2013年9月30日現在)

■ 発行済株式の総数	633,291,754株
■ 株主数	71,882名
■ 大株主状況(上位10名)	

株主名	保有株式数 (万株)	持株比率 (%)
トヨタ自動車株式会社	5,261	8.3
日本生命保険相互会社	3,632	5.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,084	4.9
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,740	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,455	3.9
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1,115	1.8
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	946	1.5
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	840	1.3
NATSCUMCO	676	1.1
MS&ADグループ社員持株会	612	1.0

* 当社は自己株式1,336万株を保有していますが、上記大株主から除いています。



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内に開催します。
配当の基準日	期末配当金：毎年3月31日 中間配当金：毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社および 三菱UFJ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告の方法により、下記ホームページに掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。 http://www.ms-ad-hd.com/ir/notification/index.html

お問い合わせ先

三井住友信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711

株式に関するお手続きについて

1. お受け取りがお済みでない配当金を受け取るお手続き
三井住友信託銀行までお申し出ください。
なお、配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、当社定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。
2. その他のお手続き
 - (1) 証券会社に口座をお持ちの場合
お取り引きの証券会社へお申し出ください。
 - (2) 証券会社に口座をお持ちでない場合
特別口座での管理となっておりますので、三井住友信託銀行または三菱UFJ信託銀行へお申し出ください。

【お手続きの例】

- ご住所の変更
- 今後の配当金受取口座のご指定
配当金領収証でのお受け取りのほか、口座等への振込のご指定もできます。
- 単元未満株式の買取・買増のご請求
証券取引所で売買できない、100株未満の株式(単元未満株式)につきましては、買取・買増のご請求により整理することができます。

● 例えば… 当社株式を150株ご所有の場合

買取請求 当社に株式の買取をご請求 いただく方法	買増請求 当社から株式を買い増して 100株単位としていただく方法
--------------------------------	---

株主さまのご所有の150株のうち、当社が50株を買い取ります。え、当社から50株を買い増します。

▶ 株主さまのご所有の株式は100株となります。

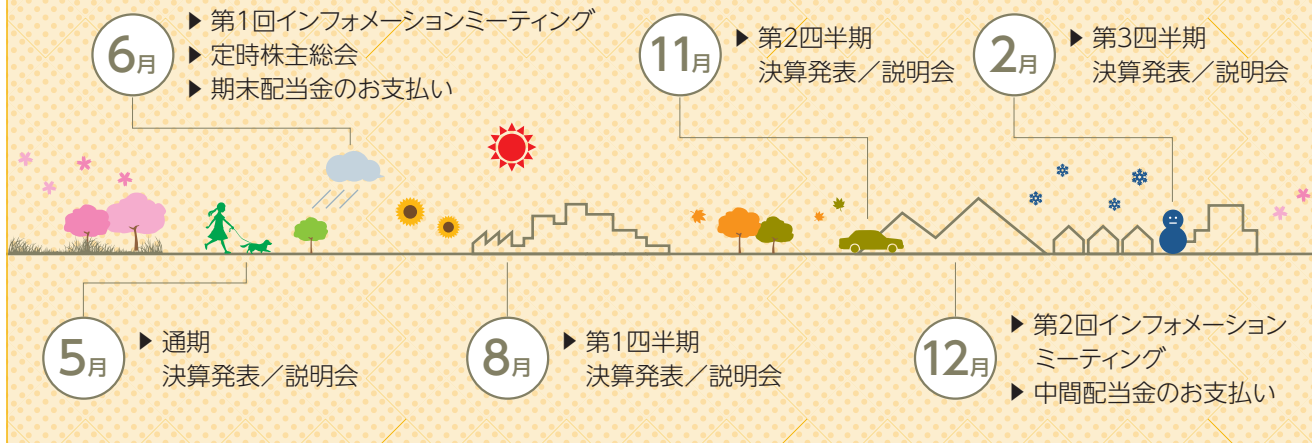
▶ 株主さまのご所有の株式は200株となります。



■ 特別口座からの振替手続き

特別口座の株式につきましては、単元未満株式の買取・買増のご請求のほかは売買ができませんので、証券会社に開設された口座への振替をお勧めします。

年間IRスケジュール (予定)



WEBサイトのご案内

<http://www.ms-ad-hd.com>

MSAD

検索

当社WEBサイトでは、株主・投資家の皆さまへのIR情報・財務情報をはじめ、最新のニュースや社会貢献活動への取組みなど、さまざまな情報を掲載しております。また、Eメールアドレスをご登録いただいた皆さまには、ニュースリリースをお知らせしておりますので、是非ご利用ください。(登録方法は下記をご参照ください。)

The first screenshot shows the main navigation menu with '株主・投資家情報' highlighted. The second screenshot shows the '株主・投資家情報' page with 'メール配信案内' highlighted. The third screenshot shows the 'メール配信案内' page with the 'Eメール配信 登録/変更/退会' button highlighted.

立ちどまらない保険。

MS&AD MS&AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

